

野菜研究室ダイアリー

2025 年 12 月



〇イチゴ新品種育成について意見交換しました

私たちの研究室ではイチゴの新品種育成を継続的に実施しており、県内でイチゴを生産する代表的な農家の方々に育種サポーターとして関わっていただいています。

年末商戦で多忙な中、育種サポーターや関係者の皆さんにお越しいただき、現在の進捗状況をお伝えするとともに、ご助言を頂戴しました。栽培ほ場もご案内し、生育や果実の状態を確認してもらいました。ざっくばらんにいろいろな話をすることができ、様々な気づきを得ることができました。何よりも、イチゴ農家の方々からの励ましの言葉に勇気づけられ、ますます元気になりました。



育成の進捗をご説明し、意見交換しました。みなさん真剣な面持ちです。



ほ場でもざっくばらんに意見交換。
栽培状況もお褒めいただき、望外の喜びでした。

○連携協定4機関の交流会で、研究成果を発表

愛知県農業総合試験場は、県内で農業に関する教育・研究を実施している名古屋大学、名城大学、中部大学との連携協定を締結しています。例年、協定4機関の交流会が開催されており、今年は私たちの研究室の試験研究成果として、ナス新品種「とげなし豊両」の開発と普及について発表しました。



今年は名古屋大学で開催されました。



会場は野依記念学術交流館です。
野依良治博士のノーベル化学賞受賞を
記念して整備された施設です。



緊張しつつ、無事に発表を終えました。

○農業感謝祭の品評会で、野菜の審査に参加しました。

毎年 12 月に、五穀豊穡を感謝する熱田神宮豊年講の神事に合わせ、農業感謝祭農林畜産物品評会が開催されます。なんと、今年で 73 回目だそうです。

今回は当研究室の職員 1 名が、農業革新支援専門員(高度な課題を受け持つ普及指導員)とともに野菜の審査に参加しました。長引く残暑にたたられたにも関わらず、いずれも甲乙つけがたい出来映えで、全部を「特賞」にしたいくらいでした。



片手で持つのは困難な、
ずっしりとしたキャベツたち。



カブも異次元の立派さです。



蜂蜜です。畜産物のひとつです。



何かと話題のお米。高級嗜好品かも？！





2025 年も残りわずかとなりました。熱田神宮では、大きな木の枝払いなど、お正月の準備が始まっていました。県内の農家の方々は、1 日も欠かさず農畜産物の管理をなさっています。私たちの研究室でも、年末年始も当番の職員が交代で勤務し、大切な野菜たちをお世話します。なんとか無事に年を越せるよう、神様にお祈りしてきました。

この「野菜研究室ダイアリー」、実は愛知県の農学職採用試験の受検を検討されている人たちに私たちの日常的な仕事の様子を伝えたいと考え、掲載を開始しました。農学職は専門職種なので、一般的に考えられている地方公務員の業務内容とは異なる部分もあろうかと思います。既報を含めた一連の記事をご覧ください、「こんな仕事なのか」「こんな感じの職場環境なのか」などイメージするための一助となれば幸いです。なお、愛知県職員の採用については、愛知県人事委員会のウェブサイト(下記URL)に詳しい情報が掲載されていますので、一度ご覧いただければと存じます。

<https://www.pref.aichi.jp/jinji/syokuin/>

では、よいお年を！

愛知県農業総合試験場 園芸研究部 野菜研究室